



氷海の海を砕氷船が氷を割って突き進む

海岸に押し寄せた流氷が寒い夜 きしみあって ギューギュー泣く

ゴォーと吹きすさぶ風。夜が明けると流氷ははるか沖へ

そして海が開ける

それは どんな風なのか 憧れていた流氷の walk



### 【 内 容 】

網走 流水探訪 アルバム 2004.3.7.



1. 氷海を切裂いて進む砕氷船「オーロラ号」 砕氷船  
氷海を突き進む砕氷船 かつて苦労した米 Coast Guard 氷海船規格鋼板とその溶接を  
思い出していました
2. 流氷原の向こうに地球が見える日本一冬が美しい能取岬  
流氷に埋め尽くされた オホーツク 鱒浦・北浜海岸 流氷の上を Walk

3月6日の夜 札幌発網走行の夜行特急に家内と二人飛び乗り、念願のオホーツク海の流氷を見学してきました。

旭川を越え石北峠へ 暗闇の車窓には月明かりの中 雪に埋まった家々がぼんやりと浮かぶ。

今年は暖冬で札幌でもあまり流氷の話聞かぬという話に果してオホーツクの流氷は接岸しているだろう

か・・・ 昨日の嵐で岸から離れたのではないかと・・・などあれこれ心配していましたが、この凄い雪に心配も吹っ飛んでただ黙りこくって真っ暗な車窓に見入っていました。石北峠を越えて、網走に近づくと益々雪が深くなる。

夜あけの薄明かりの中雪でおおわれた網走湖の湖面に点々とわかさぎ釣



氷結した網走湖畔に広がるテント

りのテントが見えると程なく網走駅。朝6時30分網走着。

新聞などで流氷見物の旅行社の案内見ているともっと人があふれていると思っていましたが、駅もひっそり、静かなもの。流氷見学の砕氷船の出る網走港へ行かねばならないが、朝早くそれも雪の中 全く足がない。朝一番の流氷船出発が9時30分。無理もないと納得するが、北国の朝は遅い。

とにかく 「早く港へ行って「流氷」の顔が見たい」ととりあえず、街の中心のバスセンターまで歩くが、やっぱり足なし。 たまたま通りかかった唯一のタクシーに乗って、港へ。物好きと運転手も笑う。でも ひょっとして 臨時があるかもしれないと・・・。

また 船からの流氷見学もいいが、能取岬からの流氷が一番 「日本で一番冬 美しい岬 そして 地球がみえる岬」それが能取岬 時間取れば 是非行こうと勧める。

港の乗船場の建物も閉まったままだったが、8時に臨時の「オーロラ号」が出るという。ラッキーである。これで 一日行きたい所へ行ける。



雪に埋もれた早朝の網走駅

## 1. 氷海を切裂いて進む砕氷船「オーロラ号」 砕氷船

氷海の中を進むオーロラ号 かつて苦労した米 Coast Guard 氷海船規格鋼板とその溶接を思い出していました



氷結した網走港 2004.3.7.

オーロラ号の見学後 能取岬への案内をタクシーに頼んで臨時のオーロラ号を待つ。この臨時便が出ることを全く 誰も教えてくれない。駅で多くの人が待っているのに・・・と。

おそらく ツアー客中心の予約便。約1時間 ひっそりした待合室で待つ。

ヒューヒュー冷たい風が吹くが、快晴。

岸壁に出ると、港は完全に凍りついていて、カモメがその上で羽を休めている。まさに海が閉ざされている。

こんな港を見るのは始めてである。

岸壁にはオーロラ号が接岸しており、乗り組みの人達があわただしく準備をしている。岸壁にひとつ流氷の塊が置かれていて、写真撮影用の足場がある。おそらく ここで みんな写真をとって船に乗るのだろう。でも今は全く人影なし。ちょっと心配になってくる。

少しだけ港の北に開水面がみえるが、港は凍りついていて、流氷は防波堤に阻まれて、港には入ってこないが、もうすぐその向こうは流氷原だと船の人が教えてくれる。

「海あけ」の言葉があるが、今は完全に港が凍りついていて、閉ざされている。

早く流氷がみたい・・・

待合室に帰ると続々とバスがついて、次々と人達が到着。早朝の網走の街では考えられぬ人の群れ。みんなツアーが普通なのである。ようやく待合室に活気が戻ってくる。程なく乗船である。



出帆して 防波堤を越え、オーロラ号が船首を南に向けると一面に氷海が広がる。平坦な港の中の凍りついた平坦な海とは全く違うゴツゴツの氷塊が水平線のかなたまで続いている。北に能取岬西に網走の街から知床への海岸線 南に知床半島の峰々。その間に広がる広大な流氷原。あこがれていた風景である。

その中を氷を割って 砕氷船オーロラ号が進む。かつて見た南極の映画の光景そのもの。流氷の塊を砕きながら船が進んでゆくと船がかき混ぜた氷塊につく餌を探してカモメがいっせいに船を追う。氷の色が実に美しい。



氷海の中を進むオーロラ号 かつて苦労した米 Coast Guard 氷海船規格鋼板とその溶接を思い出していました

氷にぶち当たる大きな衝撃に耐えうる低温靱性の高い溶接と鋼板の開発。氷海を進むタンカーを夢見て・・・

そして、それが 宗谷の後継の砕氷船「白瀬」になって・・・

氷海の中の一時間 家内と二人 あっちへ行ったり こっちへ行ったり 氷海の中を楽しみました。



網走 流氷観光砕氷船 オーロラ号より 2004.3.6.



## 2. 流氷原の向こうに地球が見える日本一冬が美しい能取岬

早朝 乗り合わせたタクシーの運転手さんが言う。

「日本一冬が綺麗な岬 唖然とするほどに・・・ また 地球が見える

流氷見にきて能取岬にゆかなかったら損。 網走の自慢は能取岬だ 」と



日本の冬が一番美しい能取岬 2004.3.7.

午後の予定はオホーツクの海岸に行って 流氷の上を歩いて娘の勧める「ラーメン」食べに行くだけ。流氷船に思いのほか早く乗れたので時間は たっぶり。運転手氏のあまりの勧めに能取岬に行ってからオホーツクの海岸に行くことにする。 能取岬は網走の町の背後を北に海岸に沿って走る丘陵の先端。夏のポスターで灯台と花が綺麗なところとの印象はあるが、全く予備知識なし。網走港から街へ戻って北へ丘を登ってゆく

林の中のドライブウェイを約15分 突如草地在る能取岬に飛び出す。風が本当に冷たい。



能取岬より 流氷に埋め尽くされたオホーツク海 2004.3.7.

眼前には地平線の向こうまで流氷原が広がるオホーツクの海。運転手氏が言うように眼前約270度さえぎるものがない。北には宗谷へ続くオホーツク 南の端は知床半島 ずっと流氷原。本当に地球が丸い。ちょっと岬の下に顔を覗かせているオープン海面の色が実に美しい。

船の上では見られない流氷の世界。北のアムール川から流れ出た流氷がオホーツクの海を渡り、風に乗ってこの岬に押し寄せる。そのボリュームにただ見とれる。風来坊でないと味わえない 運転手氏の自慢に感謝である。

### 3. 流氷に埋め尽くされたオホーツク 鱒浦・北浜海岸 流氷の上を Walk

海岸に押し寄せた流氷が寒い夜 きしみあって ギューギュー泣く。

ゴーゴーと吹きすさぶ風。夜が明けると流氷ははるか沖へ。

そして海が開ける。

それは どんな風なのか 懂れていた流氷の walk

網走より知床斜里を通して釧路へ釧網線がオホーツクの海岸を走っている。

この海岸へ行けば流氷に触れると午後はこのオホーツク海岸へ。ガイドブックによる観光ポイントはこの釧網線の駅がオホーツクの海に一番近い無人駅北浜駅。知床半島まで埋め尽くした氷海をバックに海岸沿いを走る汽車と駅舎がそのままレトロの喫茶店になっていて ここで流氷見ながらコーヒー飲むか ラーメンするのが最高と。

先の運転手氏のお奨めは北浜へ行く手前の鱒浦海岸。「そのまま 海岸へ降りて流氷の上を歩ける」と。

海岸に沿って汽車もバスも走っているの、鱒浦海岸へ行ってそれから北浜へ行くことにする。

#### a. オホーツク 鱒浦海岸 流氷の Walk

網走から知床斜里へ向う国道・釧網線がすぐ海岸のそばを走っている。 野取岬からそのままタクシーで鱒浦の海岸で下ろしてもらおう。

もう、すぐ目の前に流氷原が広がるオホーツク。

もう圧倒的ボリュームで網走の岬から知床まで眼前のオホーツクはゴツゴツした氷塊で埋め尽くされている。

すぐ横に鱒浦の漁港があるが、これでは全く海に出れまい。「海が開く」のイメージがよくわかる。





網走の南 流氷に埋め尽くされた鱒浦海岸 2004.3.7.



鱒浦海岸で流氷とたわむれて 2004.3.7.

まあ 物好きの部類なのか 流氷の埋め尽くされた海岸には人もなし。あまり奥へは行けないが、ゴツゴツした流氷の上を家内と二人ではしゃいで楽しむ。一つ一つ形が違うのと氷塊を通過して薄青の光が放たれるが、その光の変化が実に美しい。これが雪原との違いか・・・

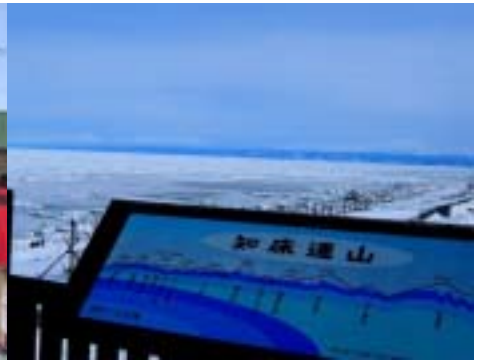
海岸に建つ網走海鮮市場で昼食 うまい海鮮丼ほおばりながら

この魚やカニどこから来るのだろう 海は閉ざされているし 地元産ではないなあ・・・と

でも おいしかった。

海岸へ出て 直ぐにあったバスで釧網線の北浜駅へ 約10分で北浜駅

## b. オホーツクに一番近い駅 釧網線の無人駅 北浜駅



北浜駅はさすが観光スポット。

無人駅で眼前に氷海のオホーツクが広がる以外何も無いのに、多くの人がいる。

駅が「停車場」という喫茶店になっていて、駅舎の中も人であふれている。

駅の直ぐ横に櫓が立っていて、その上には多くの人がカメラを並べている。氷海越しに知床の山々硫黄・羅臼・斜里岳が薄くかすんで見える。どうも この上が汽車と氷海と知床半島を一枚の写真に収める絶好のポイントになっているらしく、みんなそれを待っているらしい。何はともあれ、レトロの駅舎の喫茶店に入って流氷を眺めながら娘推奨のラーメンを頼んで待つ。人は多いのですが、ゆったり気楽な気分でラーメンをすする。家内はコーヒー。



次にこの駅にやってくるのは観光列車「流氷のろっこ号」。

みんなそれがお目当てはそれらしい。ぼくも マニヤよろしく櫓に乗って写真撮って 汽車に飛び込む事にする。みんな 汽車が駅に入るちっと前の一瞬にかけて シャッターをきる。



知床の山々・氷海のオホーツクをバックに走ってくる「流氷・ノロッコ」号 2004.3.7.

念願の流氷 Walk。やっとかないました。

夜行列車の駆け足でしたが、ツアーに入らぬ気楽な風来坊。

船と岬と海岸で流氷はそれぞれ違った表情を見せてくれました。

本当に美しい景色と共に北国の冬の厳しさを見たように思います。

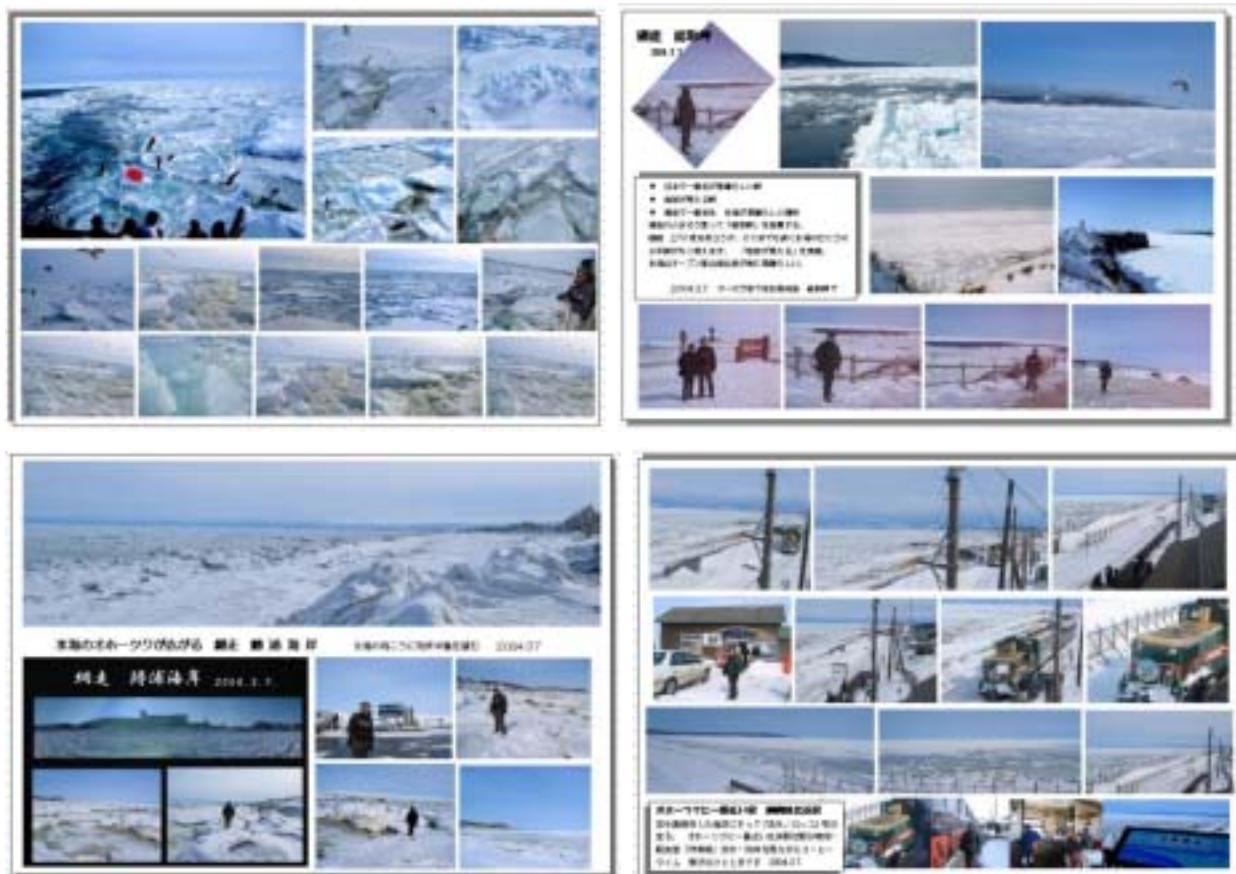
「流氷とけて 春風吹いて ハマナス咲いて カモメもなくて・・・」

「宗谷岬」の歌が ふっと心地よくよぎりました。

流氷とけて 春風吹いて ハマナス咲いて カモメもなくて  
はるか沖ゆく 外国船の 煙もうれし 宗谷(そうや)の岬(みさき)  
流氷とけて 春風吹いて ハマナス揺(ゆ)れる 宗谷の岬

早く「海が開く」こと願っています。 虫の良い風来坊ですが・・・本当にそんな気がします。

2004.4.7. 網走から札幌へ向う汽車の中で by Mutsu Nakanishi



網走 流氷探訪 アルバム 2004.3.7.

1. 氷海を切裂いて進む砕氷船「オーロラ号」 砕氷船
2. 流氷原の向こうに地球が見える日本一冬が美しい能取岬
3. 流氷に埋め尽くされた オホーツク 鱒浦・北浜海岸 流氷の上を Walk

【完】

by M. Nakanishi 2004.4.1.